



自動シャットダウンソフトウェア

PowerAct Pro Slave Agent

Linux版 (Ver.9用)

インストールガイド



ご使用上の注意

本ソフトウェアの用途について

本ソフトウェアは、OA 機器に使用することを目的に設計・製造されています。以下のような、極めて高い信頼性や安全性が要求される機器、用途には使用しないでください。

- ・ 人命に直接かかわる医療機器。
- ・ 人身の損傷に至る可能性のある用途。（航空機、船舶、鉄道、エレベータなどの運行、運転、制御などに直接関連する用途）
- ・ 車載、船舶など常に振動が加わる可能性がある用途。
- ・ 故障すると社会的、公共的に重大な損害や影響を与える可能性のある用途。（主要な電子計算機システム、幹線通信機器、公共の交通システムなど）

ソフトウェア使用許諾契約書について

このソフトウェアのダウンロード、インストール又は使用に際しては、次のソフトウェア使用許諾契約書（以下本契約）の内容が適用されることに同意いただく必要があります。ご同意いただけない場合には、このソフトウェアをダウンロードし、コンピュータにインストールし又は使用しないでください。

[ソフトウェア使用許諾契約書]

このソフトウェア使用許諾契約書（以下「本契約」）は、オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社（以下オムロン）がお客様に許諾ソフトウェア（第1項の定義による）を使用許諾する条件を定めたものです。許諾ソフトウェアのダウンロード、インストール又は使用に際しては、本契約の内容が適用されることに同意いただく必要があります。

1. 本契約において、次の各号に掲げる用語の意味は、当該各号に定めるところによります。
 - (1) 「エンドユーザー」とは、オムロン UPS 及び許諾ソフトウェアが組み込まれたお客様製品を自己のものと使用する最終使用者をいいます。
 - (2) 「お客様製品」とは、お客様が製造及び販売する機器又はシステムソフトウェアをいいます。
 - (3) 「オムロン UPS」とは、お客様又はエンドユーザーがオムロンから直接又は販売店その他の第三者を通して購入したオムロンの無停電電源装置（UPS）をいいます。
 - (4) 「許諾コンピュータ」とは、1台又は複数のコンピュータであって、お客様又はエンドユーザーが所有し、かつ、1台のオムロン UPS から電源供給を受けているものをいいます。
 - (5) 「許諾ソフトウェア」とは、コンピュータ・プログラム「PowerAct Pro Slave Agent」及びそれに関連する一切のドキュメントで当該プログラムとともに配付されるものをいいます。

2. オムロンは、お客様に対し、本契約に基づき許諾ソフトウェアに関し次に掲げる非独占的権利を許諾します。
 - (1) オムロン UPS を監視及び管理する目的に限り、一つ又は複数の許諾ソフトウェアの複製物を作成し、許諾コンピュータにおいて当該複製物を使用する権利。
 - (2) オムロン UPS を監視及び管理する目的に限り、一つ又は複数の許諾ソフトウェアの複製物をオブジェクトコードの形式で作成し、オムロン UPS 及び許諾ソフトウェアを組み込んだお客様製品の一部として直接又は販売店その他の第三者を通してエンドユーザーに対しこれを頒布する権利。
 - (3) 前号による頒布の目的に限り、ハードディスクドライブのクローニング（複製）のためのマスター・ハードディスクドライブ（ハードディスクドライブ・イメージを含む）の一部としてオブジェクトコード形式で許諾ソフトウェアの複製物を作成する権利
 - (4) バックアップの目的に限り、一つの許諾ソフトウェアの複製物を作成する権利

3. 許諾ソフトウェアは、前項により使用許諾されるものであり、許諾ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産権が本契約に基づきお客様に移転することはありません。お客様は、前項に基づき明示的に許諾されたものを除き、許諾ソフトウェアに関する次に掲げる行為を行うことはできません。
 - (1) 複製又は改変
 - (2) 第三者への再使用許諾、譲渡又は貸与
 - (3) 逆コンパイル、逆アセンブリ、リバースエンジニアリングその他これらに類する行為
 - (4) 外国為替及び外国貿易管理法その他お客様に適用される輸出管理規制に違反する行為

4. お客様は、許諾ソフトウェアに含まれる情報を機密として取扱い、第三者へ開示しないものとします。

5. お客様が許諾ソフトウェアのライセンスを購入した日又はお客様が許諾ソフトウェアをインストールした日のいずれか早く到来する日から 90 日以内に許諾ソフトウェアの作動のマニュアルへの重大な不一致があることを発見してオムロンにその旨を通知した場合、オムロンは、当該不一致が当該期間内にお客様から書面で報告され、かつ、再現可能であるときに限り、オムロンの費用負担で当該許諾ソフトウェアを交換し又は当該不一致を修正いたします。

当該交換又は修正によって当該不一致のすべてが除去されるものではありません。

オムロンは、オムロンの選択により、当該交換又は修正に代えてお客様が許諾ソフトウェアを購入するために支払った費用を返金することができます。この場合、この契約は終了します。

上記にかかわらず、当該不一致がお客様又は第三者によるオムロン UPS 若しくは許諾ソフトウェア又はコンピュータの不適切な使用又は取扱いにより生じた場合、取扱説明書の指示に従わなかったことにより生じた場合又は使用されることが意図されていない設備機器とともに使用された場合については、上記の許諾ソフトウェアの交換又は修正の対象外となります。

さらに、この項の最初の段落にかかわらず、ユーザーがオムロン UPS に同梱の記録媒体又はオムロンのウェブページからのダウンロードにより許諾ソフトウェアを無償で入手した場合、許諾ソフトウェアは、現状有姿で提供され、この項は適用されません。

6. 前項は、オムロンの許諾ソフトウェアの作動及び不動作に関する責任のすべてを定めるものであり、オムロンは許諾ソフトウェアの作動及び不動作により発生した、お客様の直接的、間接的、あるいは波及効果による損害、特別な事情による損害、逸失利益についての損害に対しては一切の責任を負いません。
7. オムロンは、お客様が許諾ソフトウェアを他社のソフトウェアと連携させて使用した場合の許諾ソフトウェアの目的適合性、動作性、第三者の知的財産権の非侵害及び合法性については、一切の保証をいたしかねます。お客様ご自身にてご確認いただき、許諾ソフトウェアのご利用の可否をご判断ください。
8. 許諾ソフトウェアの改変並びに逆コンパイル、逆アセンブリ及びリバースエンジニアリングその他のそれに類する行為により、特許権（実用新案権に基づく権利も含む。以下同じ）、著作権又は営業秘密を侵害するものとしてオムロンに使用を許諾している第三者又は当該第三者以外からお客様が請求された場合にはオムロンは責任を負いません。
9. オムロンがお客様の損害について責任を負ういかなる場合においても、オムロンの責任はお客様が許諾ソフトウェアにより監視及び管理している無停電電源装置（UPS）の購入代金として支払った金額又は許諾ソフトウェアのライセンスの購入代金として支払った金額のいずれか低い方の金額を超えることはありません。
10. お客様が本契約に違反した場合、オムロンはお客様に通知することにより許諾ソフトウェアの使用許諾を終了させることができます。
その場合、お客様は許諾ソフトウェア及びそのすべての複製物をオムロンに返却し又は削除しなければなりません。
11. 本契約は、日本国法に基づき解釈されるものとします。
12. お客様が日本に居住する個人又は日本法に基づき設立された法人の場合には、本契約に関する一切の紛争については、東京地方裁判所をもって第一審の専属的合意管轄裁判所とします。
その他の場合には、本契約に関する一切の紛争については、一般社団法人日本商事仲裁協会の商事仲裁規則にしたがって、東京において仲裁により最終的に解決されるものとします。
仲裁人の裁定は、最終的かつ本契約の当事者を拘束するものとします。
13. 本契約は、日本語版で作成されるものとし、英語版は参考訳とします。日本語版の内容と英語版の参考訳の内容に相違がある場合は、日本語版の内容が優先します。

おことわり

1. 本ソフトウェアおよび本書の内容の全部または一部を無断で流用することは固くお断りいたします。
 2. 本ソフトウェアおよび本書の内容については将来、予告なしに変更する場合があります。
 3. 本ソフトウェアおよび本書の内容については万全を期しておりますが、万一誤りやお気づきの点がございましたら、当社までご連絡くださるようお願いいたします。
 4. 本書に記載した画面などは、実際のものとは一部異なる場合があります。
-
- ・ PowerAct Pro®はオムロン株式会社の登録商標です。
 - ・ Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - ・ その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

本書の構成

本書は Linux9 の環境で本ソフトウェアを使用するユーザ向けに作成しており、設定についてはコマンドラインとグラフィック画面ツールに分けて説明しています。

項目	コマンドライン (CLI)	グラフィック画面 (GUI)
本ソフトウェアの概要	1. 機能の概要 ➡P. 1~	
インストール	2. インストール ➡P. 4~	
本ソフトウェアの設定／設定項目の説明	3. コンソール設定 ➡P. 6~	4. 環境設定 ➡P. 15~
ファイアウォール設定	コマンドラインで設定する ➡P. 30	ファイアウォール設定ツールで設定する ➡P. 31
アンインストール	5-2 アンインストール方法 ➡P. 33	

本書で使用する表記

本書では、以下の表記を使用しています。

表記	概要
注意	守っていただきたい事項、操作上の注意を要する事項を記載しています。記載をよくお読みになり、必ず指示に従ってください。
参考	役立つ情報やヒントとなる情報を記載しています。また、
➡	関連する情報が記載されているページや他のマニュアルなどを紹介しています。
本ソフトウェア	自動シャットダウンソフトウェア PowerAct Pro SlaveAgent を表します。
[]	画面に表示される項目で、操作対象のもの（クリックできるボタン類）を表します。 (例) [次へ] ボタン
「 」	画面に表示される項目で、画面名や設定値を表します。 (例) 「シャットダウンパラメータ」タブ

目次

1. 機能の概要	1
1-1 主な機能とシステム構成例	1
■コンピュータの自動シャットダウン	1
■冗長電源構成	2
1-2 動作環境	2
1-3 シャットダウンシーケンス	3
2. インストール	4
2-1 インストールの前に	4
2-2 インストールの準備	4
2-3 インストール	6
3. コマンドライン設定	8
3-1 設定項目	8
3-2 設定手順	11
3-3 通信状況の確認	14
3-4 コマンド	15
■本ソフトウェアのコマンド	15
■コマンドサンプル画面	16
4. 環境設定（グラフィック画面設定）	17
4-1 デスクトップアイコン	18
■アイコン表示	18
■アイコン操作	18
4-2 環境設定を開く	19
4-3 マスタエージェント選択	20
4-4 シャットダウンパラメータ	21
■下部ボタン	24
4-5 初回（インストール直後）の設定手順	25
■ファイアウォール設定で UDP ポート 4114 を開放する	25
■環境設定	26
5. その他の設定	30
5-1 ファイアウォール設定（PowerAct Pro MasterAgent の場合）	30
■コマンドラインで設定する	30
■ファイアウォール設定ツールで設定する	31
5-2 アンインストール方法	33

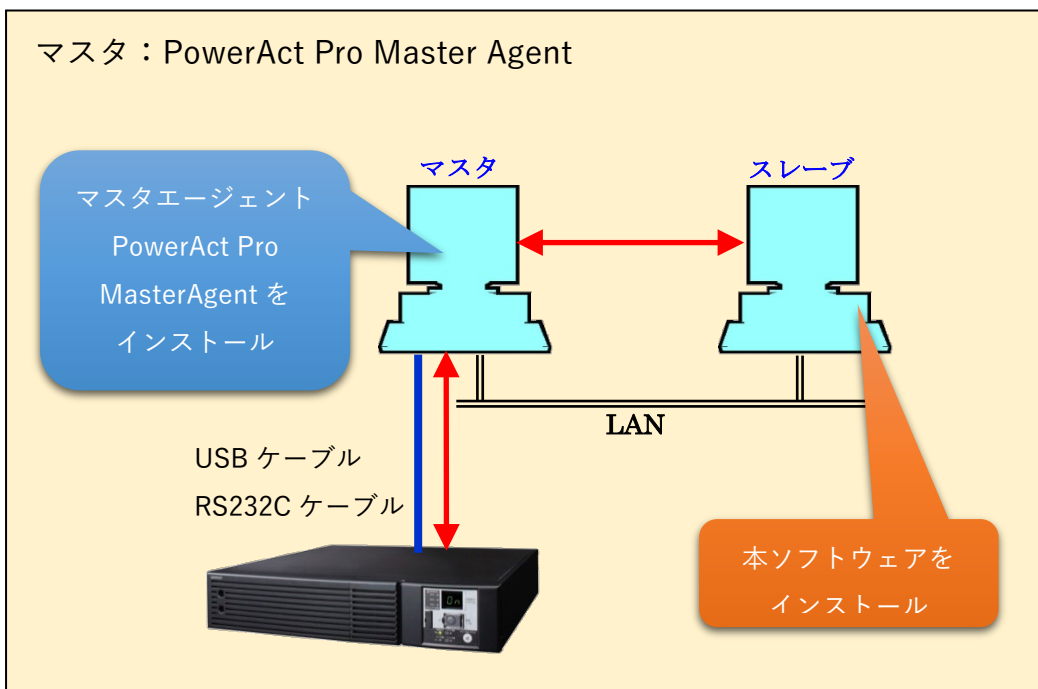
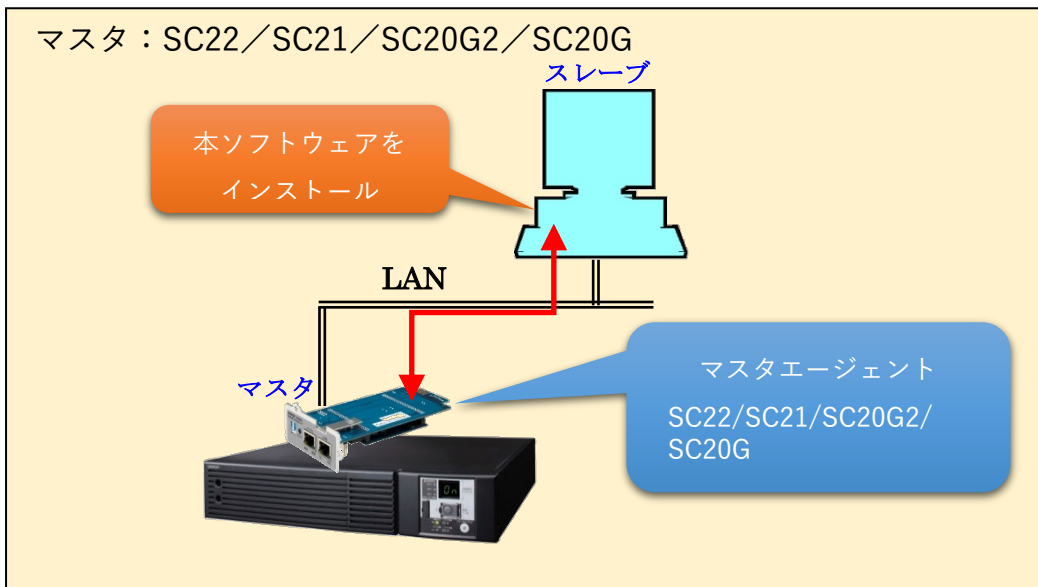
1. 機能の概要

本ソフトウェアは、マスタエージェント（SC22 / SC21 / SC20G2 / SC20G / PowerActPro Master Agent）に連動して、コンピュータを正常に終了し、OS やハードディスクの損傷を防止します。

1-1 主な機能とシステム構成例

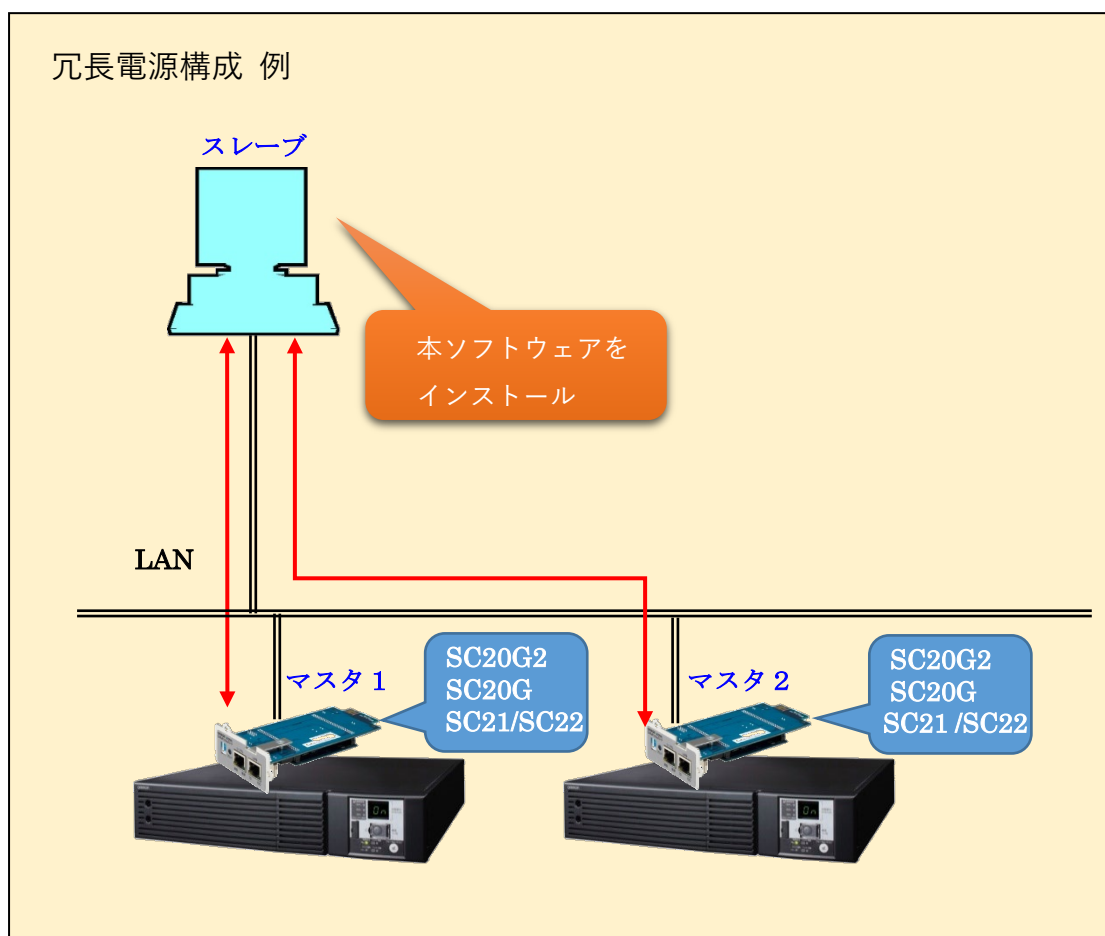
■コンピュータの自動シャットダウン

入力電源異常やスケジュール等によりマスタエージェントがシャットダウンする際に、連動してコンピュータを終了させます。



■冗長電源構成

本ソフトウェアに同一種別（型式）のマスタエージェントを複数枚登録することにより、冗長構成を組むことができます。冗長構成を組めるマスタエージェントは SC22、SC21、SC20G2、SC20G です。型式が異なる組み合わせでは成立しませんので、同じ型式（SC21×2 枚等）で構成してください。



1-2 動作環境

■対応OS

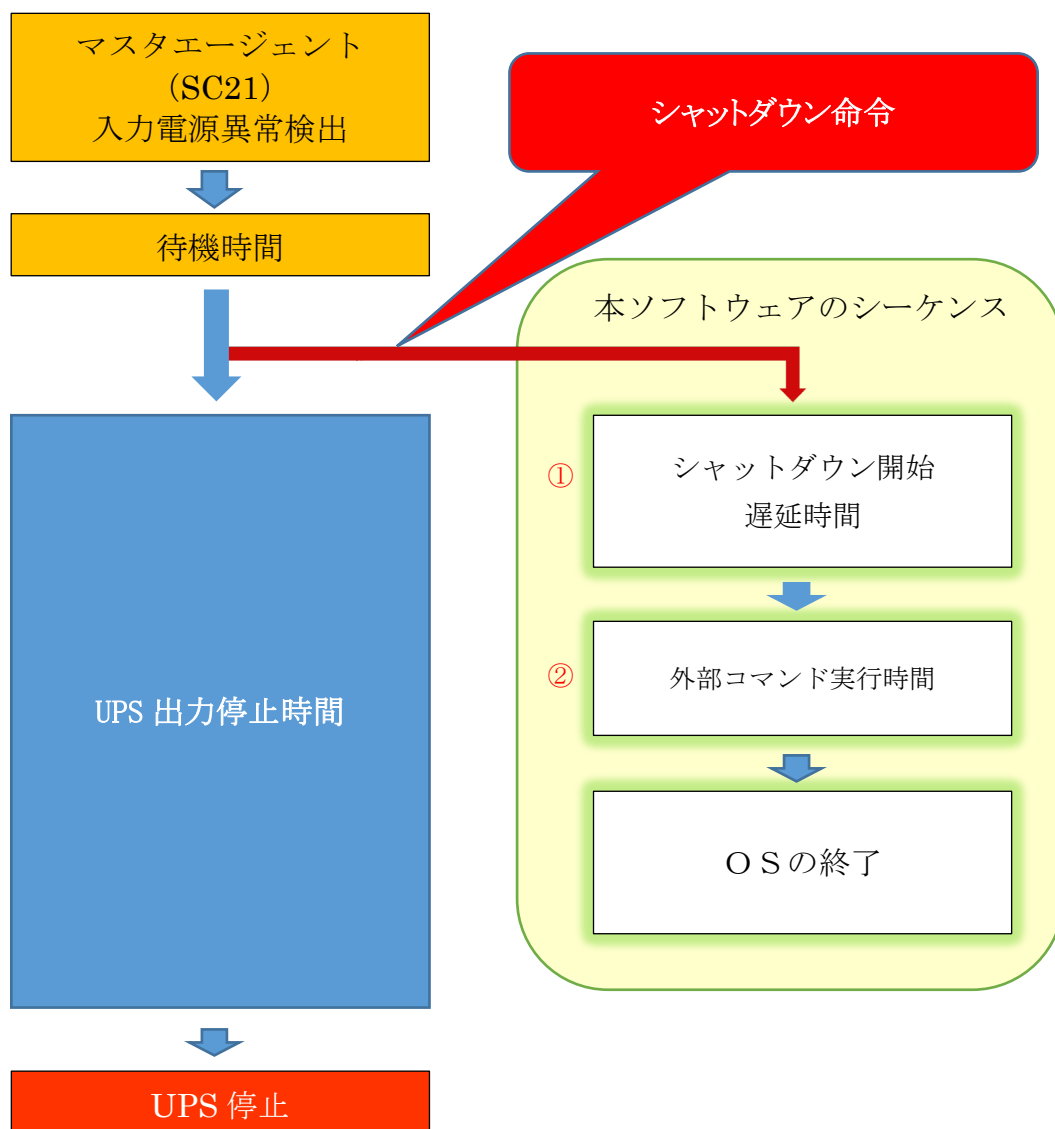
対応状況は、当社ホームページをご覧ください。

https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/product/soft/shutdownsoft_sentaku.html

1-3 シャットダウンシーケンス

以下の流れでシャットダウンが実行されます。

例) マスタがネットワークカード (SC21) の場合



	項目名	説明
①	シャットダウン開始遅延時間	マスタエージェントからシャットダウン命令を受けた際に、シャットダウン開始時間に遅延をかける設定です。
②	外部コマンド実行時間	外部コマンドを使用する場合、外部コマンドを実行するのに必要な時間を設定します。 「Select Virtual Server Shutdown Mode」で、「Shutdown by PowerAct Pro」を選択した場合、ゲスト OS の終了に必要な時間を設定します。

2. インストール

本ソフトウェアのインストール手順を説明します。

2-1 インストールの前に

- ・ 本ソフトウェアは、オムロン ソーシャルソリューションズ製 UPS 以外では使用できません。
- ・ 本ソフトウェアのみではシャットダウンできません。必ず親になるマスターエージェント（SC22 / SC21 / SC20G2 / SC20G / PowerAct Pro MasterAgent）と併用してください。
- ・ コンピュータの電源を UPS から取り、マスターエージェントと同一セグメントのネットワークに接続してください。
- ・ root 権限のあるユーザ名でコンピュータにログインしてください。
- ・ OS（KVM 構築時はホスト及び仮想マシン）が正常にシャットダウンできることを確認してください。
- ・ 他の自動シャットダウンソフトウェアを使用している場合は、必ずそのソフトウェアをアンインストールし、OS を再起動してください。各ソフトウェアのアンインストール方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

2-2 インストールの準備

(1) 必要なパッケージの事前インストール

本ソフトウェアをインストールする前に、以下の手順でパッケージをインストールしてください。

1 以下のコマンドで対象のパッケージをインストールする。

```
yum install initscripts
yum install ant
```

2 以下のコマンドで対象の Java のパッケージのインストール状況を確認する

```
rpm -qa | grep java*
```

確認した結果、以下のパッケージがインストールされていない場合は、インストールするために3項の手順に進む。

- ①javapackages-filesystem.noarch
- ②javapackages-tools.noarch
- ③java-11-openjdk
- ④java-11-openjdk-devel

3 以下のコマンドにて、必要なパッケージをインストールする。

（すでにインストール済の場合は実行不要）

```
yum install javapackages-filesystem.noarch
yum install javapackages-tools.noarch
yum install java-11-openjdk
yum install java-11-openjdk-devel
```

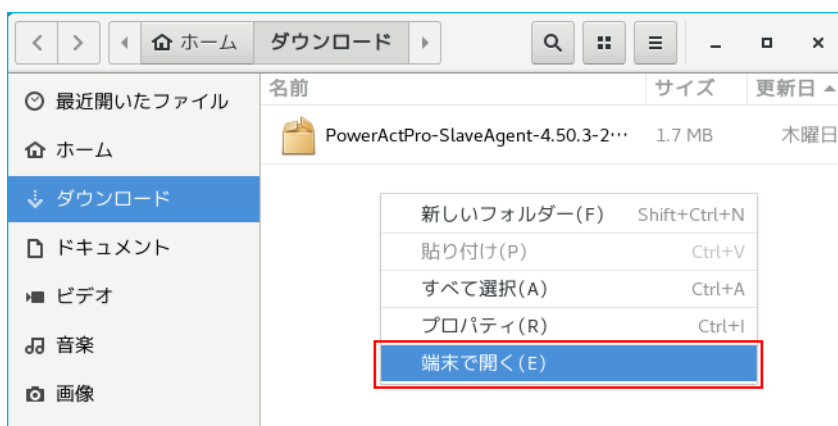
(2) 本ソフトウェアのダウンロード

当社ホームページよりダウンロードした本ソフトウェアを解凍してインストールを実行します。

1 当社ホームページより本ソフトウェアをダウンロードする

ファイル名 : PAPV460_Slave_Linux9.zip

2 「PAPV460_Slave_Linux9.zip」をダウンロードしたフォルダを開いて右クリック、メニューの「端末で開く(E)」を選択する



3 以下のコマンドで「PAPV460_Slave_Linux9.zip」を解凍する

```
unzip PAPV460_Slave_Linux9.zip
```

参考

「PAPV460_Slave_Linux9.zip」を解凍すると、「PAPV460_Slave_Linux9」フォルダが作成されます。

2-3 インストール

4 端末画面で「PAPV460_Slave_Linux9」フォルダに移動する

例)「ダウンロード」フォルダに解凍している場合

```
cd /root/ダウンロード/ PAPV460_Slave_Linux9/
```

参考

「PAPV460_Slave_Linux9」フォルダを開き、フォルダ内で右クリック→「端末で開く(E)」でも階層を移動することができます。

5 以下のコマンドでインストールを開始する

```
sh install.sh
```

6 「INPORTANT」の条項を確認し、同意いただければ「y」を入力する

```
IMPORTANT

To download, install or use this software, you must agree to the following Software License Agreement.
If you do not agree, please do not download,install or use this software.

Software License Agreement

This Software License Agreement ("Agreement") is a binding agreement between OMRON SOCIAL SOLUTIONS CO.,LTD.
("OMRON") and you (the "User") on the terms and conditions of the license of the Software (as defined below).
To download, install or use this Software, you must agree to this Agreement.

1 For the purpose of this Agreement, the following terms have the following meanings.
1.1 The "Authorized Computers" means the one or more computers those are connected by theUser and are provided with power
from one OMRON's UPS.
1.2 The "End User(s)" means any end user of the User's Products which incorporates the OMRON's UPS and the Software
1.3 The "OMRON's UPS" means Uninterruptible Power Supply sold by OMRON either.
Do you agree this license? [ y/n ] y
```

注意

「INPORTANT (使用許諾契約)」の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力しインストールを終了してください。

7 インストール終了

```
PowerAct Pro Slave Agent program has been installed completely.
Please run below command and setup the shutdown parameters of slave
agent to meet your system.
```

```
Command: /usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/slaveconfig.sh
```

以上で本ソフトウェアのインストールは完了です。続いて、本ソフトウェアの設定をします。

参考

本ソフトウェアはコマンドライン（CLI）とグラフィック画面（GUI）の設定に対応しています。
コマンドラインで設定する場合は、P. 8 「3. コマンドライン設定」に、グラフィック画面で設定する場合は、P. 17 「4. 環境設定」に進んでください。

- ・コマンドライン設定の流れ ⇨ P. 11 「3-2 設定手順」
- ・グラフィック画面（環境設定）設定の流れ ⇨ P. 25 「4-5 初回（インストール直後）の設定手順」

3. コマンドライン設定

端末で以下のコマンドを実行します。

コマンド `/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/slaveconfig.sh`

※グラフィック画面で設定する場合は⇒P. 17「4. 環境設定」に進んでください。

参考

`slaveconfig.sh` を起動する前に、以下のコマンドでサービスを停止 (Agent Stop) してください。

`/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/AgentManager/AgentManager`

※インストール直後はサービスが停止していますので、この操作は不要です。

3-1 設定項目

項目	内容				
Master Agent	本ソフトウェアの親となるマスタエージェントの種別を選択します。 選択肢 : PowerAct Pro / SC20G / SC20G2 / SC21 / SC22 ※種別を間違えると本ソフトウェアと通信できません。				
Redundant Power Supply Setting	複数台の UPS で冗長電源構成を組む場合、有効にします。 冗長電源は同じ種別のマスタエージェントで構成します。 例) SC21+SC21→OK、SC21+SC20G2→NG ※UPS が 1 台の場合は、無効にしてください。				
Redundant Power Supply Mode	コンピュータの電源を取っている UPS (=コンピュータに搭載している電源ユニット) が 2 台以上の場合に設定します。 <table border="1"><tbody><tr><td>1 + 1</td><td>最後に残った 1 台が入力電源異常になったら、シャットダウンを開始します。</td></tr><tr><td>N + 1</td><td>商用運転している UPS が N 台を切ったら、シャットダウンを開始します。 例) UPS の総数が 3 台の場合 2 台目が入力電源異常になると、残りの 1 台の電源に問題がなくてもシャットダウンを開始します。</td></tr></tbody></table>	1 + 1	最後に残った 1 台が入力電源異常になったら、シャットダウンを開始します。	N + 1	商用運転している UPS が N 台を切ったら、シャットダウンを開始します。 例) UPS の総数が 3 台の場合 2 台目が入力電源異常になると、残りの 1 台の電源に問題がなくてもシャットダウンを開始します。
1 + 1	最後に残った 1 台が入力電源異常になったら、シャットダウンを開始します。				
N + 1	商用運転している UPS が N 台を切ったら、シャットダウンを開始します。 例) UPS の総数が 3 台の場合 2 台目が入力電源異常になると、残りの 1 台の電源に問題がなくてもシャットダウンを開始します。				
The Total of Power Supply Units in the Computer	N+1 構成時に設定します。(1+1 構成時は、設定不要です) コンピュータに搭載している電源ユニットの総数 (=使用している UPS の台数) を設定します。				

項 目	内 容						
IP Address of Master Agent	<p>マスタエージェントの IP アドレスを設定します。</p> <table border="1"> <tr> <td>End</td> <td>終了して次へ進む</td> </tr> <tr> <td>Add a New IP Manually</td> <td>IP を手動設定する</td> </tr> <tr> <td>Add a New IP Manually From Net Search</td> <td>マスタエージェントを検索し、設定する</td> </tr> </table>	End	終了して次へ進む	Add a New IP Manually	IP を手動設定する	Add a New IP Manually From Net Search	マスタエージェントを検索し、設定する
End	終了して次へ進む						
Add a New IP Manually	IP を手動設定する						
Add a New IP Manually From Net Search	マスタエージェントを検索し、設定する						
Select a New IP From Net Search	<p>検索結果からマスタエージェントを選択します。</p> <p>※ファイアウォールが有効になっている場合、UDP4114 ポートを開放してください。</p>						
Popup Message	<p>イベント発生時、端末画面にイベント内容を通知します。 (ポップアップはしません。)</p>						
Select UPS Outlet	<p>コンピュータの電源を取っている出力コンセントグループ(出力コンセント A / B / C) を選択します。</p> <p>※出力コンセント制御機能のない UPS ではこの項目は出ません。</p>						
Computer Name * 1	<p>マスタエージェント (SC22 / SC21 / SC20G / SC20G2) のクライアントコンピュータ一覧 (又はクライアントテーブル) 画面に表示するコンピュータ名の設定です。(半角 15 文字以下)</p>						
Shutdown Need Time (Sec.) * 2	<p>■出力コンセント制御のある UPS 「Select UPS Outlet」で選択したコンセントグループの出力停止までの時間を設定します。コンピュータのシャットダウンにかかる時間より少し長めの設定にしてください。</p> <p>■出力コンセント制御機能のない UPS コンピュータのシャットダウンにかかる時間を設定します。</p> <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px; border: 1px solid #000; margin: 5px 0;"> <p>参考 UPS の停止までの時間は、マスタエージェントの「出力コンセント情報」で確認してください。</p> </div> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; border: 1px solid #000; margin: 5px 0;"> <p>注意 マスタが PowerAct Pro の場合は P.30 「■コマンドラインで設定する」も参照してください。</p> </div>						

項 目	内 容				
Shutdown Delay Time (Sec.) * 2	シャットダウン開始時間を遅延する設定です。 設定値は 60 秒刻みで 0~600 秒です。 (0 / 60 / 120 / 180 / 240 / 300 / 360 / 420 / 480 / 540 / 600) 「0」に設定すると、マスタエージェントからのシャットダウン命令を受信したときにシャットダウンを開始します。				
Run External Command Time(Sec.)	1. 「Run External Command」で指定したバッチファイル等を実行する時間。この時間 OS はシャットダウンを開始しません。 2. KVM 環境で「Select Virtual Server Shutdown Mode」を「Shutdown by PowerAct Pro」にした場合、ゲスト OS の終了に必要な時間を設定します。 設定値は 60 秒刻みで 0~600 秒です。 (0 / 60 / 120 / 180 / 240 / 300 / 360 / 420 / 480 / 540 / 600) ※この間ホストはシャットダウンを開始しません。 ※「0」に設定すると、仮想マシンが終了する前にホストがシャットダウンしてしまいますので、必ず、ゲスト OS の終了に必要な時間を設定してください。 ※ゲスト OS をホストが終了する場合は、「0」にしてください。				
Run External Command	シャットダウン時に実行したいバッチファイル等のパスを設定します。 バッチファイル等を使用しない場合は、Enter で次項に進んでください。				
Select OS Shutdown Mode	OS の終了モードを設定します。				
Select Virtual Server Shutdown Mode	ゲスト OS の終了処理を OS 側で行うか、PowerAct Pro で行うか選択します。 <table border="1" data-bbox="552 1476 1390 1673"> <tbody> <tr> <td>Shutdown by Linux System</td> <td>ホスト OS がゲスト OS の終了処理をする</td> </tr> <tr> <td>Shutdown by PowerAct Pro</td> <td>PowerAct Pro がゲスト OS の終了処理をする</td> </tr> </tbody> </table> ※「Shutdown by PowerAct Pro」を選択する場合は、必ず、「Run External Command Time」でゲスト OS の終了に必要な時間を設定してください。	Shutdown by Linux System	ホスト OS がゲスト OS の終了処理をする	Shutdown by PowerAct Pro	PowerAct Pro がゲスト OS の終了処理をする
Shutdown by Linux System	ホスト OS がゲスト OS の終了処理をする				
Shutdown by PowerAct Pro	PowerAct Pro がゲスト OS の終了処理をする				
Select Guest OS Shutdown Mode	ゲスト OS の終了方法を選択します。 「Select Virtual Server Shutdown Mode」で「2. Shutdown by PowerAct Pro」を選択すると設定が出ます。				

3-2 設定手順

サンプル画面で設定の流れを説明します。

参考

ファイアウォールを有効にしている環境でマスターエージェントの IP アドレスを検索して設定する場合は、UDP4114 ポートを開放してください。

※マスターエージェントの IP アドレスを手入力する場合は、開放する必要はありません。

- 1 端末画面を開き、以下コマンドで UDP4114 ポートを開放する

```
firewall-cmd --zone=public --add-port=4114/udp
```

- 2 以下コマンドで設定ツール (slaveconfig.sh) を起動する

```
/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/slaveconfig.sh
```

- 3 マスターエージェントの種別を選択する (サンプル画面では SC21 を選択)

```
*****
Master Agent
*****
1. PA Pro
2. SC20G
3. SC20G2
4. SC21
5. SC22

Select Number -> 4
```

- 4 冗長電源機能の有効/無効を選択する (サンプル画面では無効を選択)

```
*****
Redundant Power Supply Setting
*****
1. Enable
2. Disable

Select Number -> 2
```

- 5 マスターエージェントの IP アドレスの設定方法を選択する (サンプル画面では IP 検索を選択)

```
*****
IP Address of Master Agent
*****
1. End
2. Add a New IP Manually
3. Add a New IP Manually From Net Search

Select Number -> 3
```

6 検索結果の中からマスターエージェントの IP アドレスを選択する

```
*****
Select a New IP From Net Search
*****
Net Search is in Process, Please wait ...

1. 192.168.2.120
0. Return

Select Number -> █
```

7 ポップアップメッセージの有効／無効を選択する（サンプル画面では有効を選択）

```
*****
Popup Message
*****
1. Enable
2. Disable

Select Number -> 1█
```

※イベント発生時に端末画面にイベント内容を通知する機能です。

X Window 環境でもポップアップ画面は出ない仕様です。

8 コンピュータの電源をとっている出力コンセントグループを選択する

```
*****
Select UPS Outlet
*****
192.168.2.120
1. Outlet A(no Control)
2. Outlet B
3. Outlet C
Select Number -> 2█
```

※出力コンセント制御機能のない UPS ではこの項目は表示しません。

9 マスターエージェントに表示されるコンピュータ名を入力する（半角 15 文字以下）

```
*****
Computer Name
*****
Input Value: █
```

10 シャットダウン開始遅延時間を設定する（「0」は即時にOSのシャットダウン開始）

```
*****
Shutdown Delay Time(Sec.)
*****
* The range of Shutdown delay time is from 0 Sec to 600 Sec.
* The step between "0 Sec to 600 Sec" is "60 Sec".

Input Value: 0
```

11 外部コマンド実行時間を設定する（「0」は即時にOSのシャットダウン開始）

```
*****
Run External Command Time(Sec.)
*****
* The range of Ext cmd time is from 0 Sec to 600 Sec.
* The step between "0 Sec to 600 Sec" is "60 Sec".
* If you use External Command for Virtual Server shutdown, please
  setup External Command needs time for Guest OS shutdown.

Input Value: 0
```

11 バッチファイルをフルパスで設定する（バッチファイルを使用しない場合はEnterキーで進む）

```
*****
Run External Command
*****
Input a executable file: 
```

12 OSのシャットダウンモードを選択する

```
*****
Select OS Shutdown Mode
*****
1. Shutdown
2. Hibernate

Select Number -> 1
```

以上で設定は完了です。

参考

X Window を使用している場合、設定完了後に「環境設定」画面が開き、設定内容の確認と変更ができます。

☞ P. 17 「4. 環境設定」

3-3 通信状況の確認

■ポップアップメッセージ（コンソールに表示されるイベント通知）

本ソフトウェアが起動すると、マスタエージェントと通信を開始します。ポップアップメッセージを有効にしておけば、slaveconfig.sh で設定を完了する又は AgentManager（P. 15①のコマンド）でサービスを起動すると、通信開始のイベントを端末画面に通知します。

```





*****
Select OS Shutdown Mode
*****
1. Shutdown
2. Hibernate

Select Number -> 1
[root@localhost75 ~]#
Broadcast message from root (Fri Jul 27 11:25:38 2018):
Agent Start
Broadcast message from root (Fri Jul 27 11:25:40 2018):
Network Communication starts with master agent

```

■デスクトップのアイコン表示

X Window 環境ではデスクトップの右下にアイコンを表示します。アイコンでマスタエージェントとの通信状態や入力電源異常の確認が出来ます。

No	表示	動作状態	状 況
①		エージェント起動中 ／本ソフトウェアは動作しています。	マスタエージェントと通信しています。 UPS の電源に問題はありません。
②			マスタエージェントと通信しています。 UPS は入力電源異常でバックアップ運転中です。 マスタエージェントからシャットダウン命令を受けると本ソフトウェアもシャットダウンを開始します。
③			通信エラー／マスタエージェントと通信できません。停電が発生してもシャットダウンできませんのでネットワーク周りの確認をして、①の状態にしてください。
④		エージェント停止中 ／本ソフトウェアが停止しています。	本ソフトウェアは停止しています。 停電が発生してもシャットダウンできませんのでエージェントを起動させて①の状態にしてください。 ☞P. 15 「3-4 コマンド」の①

3-4 コマンド

コマンドについて説明します。

■本ソフトウェアのコマンド

No.	コマンド	概要
①	<code>/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/AgentManager/AgentManager</code>	AgentManager を起動します。 1. Agent Stop/Agent Start エージェントサービスの停止／起動 ※エージェント起動中は” Agent Stop”、 エージェント停止中は” Agent Start” の表示になります。 2. Slave configuration graphic user interface for X Window 「環境設定」画面を開く ➡P. 14 ① ※マスタエージェントの変更、シャットダウン設定の変更を <code>slaveconfig.sh</code> である場合、 <code>slaveconfig.sh</code> を起動する前に、 本コマンドでエージェントサービスを停止してください。
②	<code>/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/slaveconfig.sh</code>	本ソフトウェアの設定ツールを起動します。 ※エージェントサービスが起動している場合は、 ①の AgentManager でサービスを停止してください。 ➡P. 8 「3-1 設定項目」、P. 11 「3-2 設定手順」 ➡P. 17 「4. 環境設定」
③	<code>/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/samesetting</code>	既に導入されている SlaveAgent (本ソフトウェア) の設定内容を 新規導入する本ソフトウェアにコピーできます。 ※コマンドを実行する前に①の AgentManager でエージェント サービスを停止してください。 ※相手側コンピュータでファイアウォールが有効になっている 場合は、TCP4626 ポートを開放してから実行してください。 <手順> 1. AgentManager でエージェントサービスを停止する <code>/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/AgentManager/AgentManager</code> 2. 以下コマンドを実行する <code>/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/samesetting</code> 3. コピー元コンピュータの IP アドレスを入力する 4. Transmission finishes. と表示されれば終了 ➡P. 16 ③

■コマンドサンプル画面

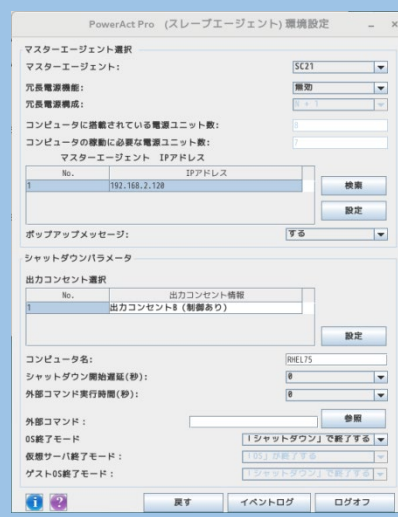
① /usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/AgentManager/AgentManager

```
[root@localhost75 ~]# /usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/AgentManager/AgentManager
```

1.Agent Stop
2.Slave configuration graphic user interface for X Window
0.Exit
Please select the number:1

1.Agent Start
2.Slave configuration graphic user interface for X Window
0.Exit
Please select the number:

「環境設定」画面 →



② /usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/slaveconfig.sh

☞ P. 8 「3-1 設定項目」、P. 11 「3-2 設定手順」参照

③ /usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/samesetting

```
[root@localhost75 ~]# /usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/AgentManager/AgentManager
```

1.Agent Stop
2.Slave configuration graphic user interface for X Window
0.Exit
Please select the number:1

1.Agent Start
2.Slave configuration graphic user interface for X Window
0.Exit
Please select the number:0

```
[root@localhost75 ~]# /usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/samesetting
```

Please input the IP address that you want to get config files from.
The files will be put in your current diretory.
Input IP here > 192.168.2.21 ←コピー元の IP アドレスを入力
Please wait ...
Transmission finishes. ←完了
[root@localhost75 SlaveAgent]# █

4. 環境設定（グラフィック画面設定）

「環境設定」はグラフィック画面で本ソフトウェアの設定をするツールです。

参考

「環境設定」を開くには X Window が必要です。X Window が起動していない場合は、startx コマンドで X Window を起動してください。

注意





「環境設定」画面は上段の「マスターエージェント選択」と下段の「シャットダウンパラメータ」に分かれています。それぞれに「設定」ボタンがありますので、必ず、値を変更した側の「設定」ボタンをクリックしてください。

4-1 デスクトップアイコン

本ソフトウェアをインストールすると、デスクトップにアイコンを作成します。

■アイコン表示

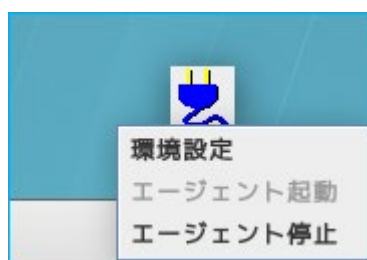
アイコンでは本ソフトウェアの動作状態、マスタエージェントとの通信状態、UPSの電源状態が確認できます。

No	表示	動作状態	状 況
①		エージェント起動中 ／本ソフトウェアは動作しています。	マスタエージェントと通信しています。 UPSの電源に問題はありません。
②		エージェント起動中 ／本ソフトウェアは動作しています。	マスタエージェントと通信しています。 UPSは入力電源異常でバックアップ運転中です。 マスタエージェントからシャットダウン命令を受けると本ソフトウェアもシャットダウンを開始します。
③			通信エラー／マスタエージェントと通信できません。停電が発生してもシャットダウンできませんのでネットワーク周りの確認をして、①の状態にしてください。
④		エージェント停止中 ／本ソフトウェアが停止しています。	本ソフトウェアは停止しています。 停電が発生してもシャットダウンできませんのでエージェントを起動させて①の状態にしてください。

■アイコン操作

アイコンを右クリックして出すメニューでは、本ソフトウェアの停止／起動（エージェント停止／起動）処理や

「環境設定」画面を開くことができます。



環境設定	「環境設定」画面を開きます。
エージェント起動	本ソフトウェアを起動します。 本ソフトウェアが停止している時に有効になります。
エージェント停止	本ソフトウェアを停止します。 本ソフトウェアが動作している時に有効になります。

参考

デスクトップのアイコンを消したい場合は、タスクバーの「xAgentManager」を右クリックし「閉じる」を選択してください。

アイコンを再表示するには、端末で以下のコマンドを実行してください。

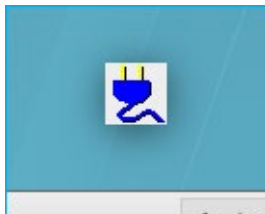
```
/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/am.sh &
```

4-2 環境設定を開く

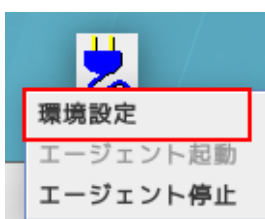
環境設定の開き方は二通りあります。

■デスクトップのアイコンから開く

- ① デスクトップ画面右下のアイコンを右クリックする



- ② メニューの「環境設定」をクリックする



■AgentManager コマンドで開く

- ① 端末を開き以下コマンドを入力する

```
/usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/AgentManager/AgentManager
```

- ② 「2」を選択する

```
[root@localhost75 ~]# /usr/lib/PowerActPro/SlaveAgent/AgentManager/AgentManager

1.Agent Stop
2.Slave configuration graphic user interface for X Window
0.Exit
Please select the number:
```

4-3 マスタエージェント選択

本ソフトウェアが連動するマスタエージェントを設定します。設定後は、必ず [設定] ボタン (下図⑦) をクリックしてください。

No	項目	内容				
①	マスタエージェント	<p>本ソフトの親となるマスタエージェントの種別を選択します。</p> <p>選択肢 : PowerAct Pro / SC20G / SC20G2 / SC21 / SC22</p> <p>※種別を間違えると本ソフトウェアと通信できません。</p>				
②	冗長電源機能	<p>複数台の UPS で冗長電源構成を組む場合、有効にします。</p> <p>冗長電源は同じ種別のマスタエージェントで構成します。</p> <p>例) SC21+SC21→OK、SC21+SC20G2→NG</p> <p>※UPS が 1 台の場合は、無効にしてください。</p>				
③	冗長電源構成	<p>コンピュータの電源を取っている UPS (=コンピュータに搭載している電源ユニット) が 2 台以上の場合に設定します。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">1 + 1</td> <td>最後に残った 1 台が入力電源異常になったら、シャットダウンを開始します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">N + 1</td> <td>商用運転している UPS が N 台を切ったら、シャットダウンを開始します。 例) UPS の総数が 3 台の場合 2 台目が入力電源異常になると、残りの 1 台の電源に問題がなくてもシャットダウンを開始します。</td> </tr> </table>	1 + 1	最後に残った 1 台が入力電源異常になったら、シャットダウンを開始します。	N + 1	商用運転している UPS が N 台を切ったら、シャットダウンを開始します。 例) UPS の総数が 3 台の場合 2 台目が入力電源異常になると、残りの 1 台の電源に問題がなくてもシャットダウンを開始します。
1 + 1	最後に残った 1 台が入力電源異常になったら、シャットダウンを開始します。					
N + 1	商用運転している UPS が N 台を切ったら、シャットダウンを開始します。 例) UPS の総数が 3 台の場合 2 台目が入力電源異常になると、残りの 1 台の電源に問題がなくてもシャットダウンを開始します。					
④	コンピュータに搭載されている電源ユニット数	<p>N+1 構成時に設定します。(1+1 構成時は、設定不要です)</p> <p>コンピュータに搭載している電源ユニットの総数 (=使用している UPS の台数) を設定します。</p> <p>※「コンピュータの稼働に必要な電源ユニット数」は自動設定されます。</p>				
⑤	マスタエージェント IP アドレス	<p>マスタエージェントの IP アドレスを設定します。</p> <p>IP アドレス欄をクリックすると直接入力できます。</p>				

No	項目	内容
⑥	検索ボタン	同一セグメント上のマスタエージェントを検索します。
⑦	設定ボタン	設定を保存します。
⑧	ポップアップ メッセージ	イベント発生時に、端末画面にイベント内容を通知します。

4-4 シャットダウンパラメータ

マスタエージェントに連携してシャットダウンする際の動作を設定します。マスタエージェントの種別により、一部設定項目（図中の②）が変わります。

SG22/SG21/SG20G2/SG20G がマスタの場合

シャットダウンパラメータ

No.	出力コンセント情報
1	出力コンセントA (制御なし)

設定

コンピュータ名: ②

シャットダウン開始遅延(秒): ③ 0

外部コマンド実行時間(秒): ④ 0

外部コマンド: ⑤ 参照

OS終了モード: ⑥ 「シャットダウン」で終了する

仮想サーバ終了モード: ⑦ 「OS」が終了する

ゲストOS終了モード: ⑧ 「シャットダウン」で終了する

PowerAct Pro がマスタの場合

シャットダウンパラメータ

No.	出力コンセント情報
1	出力コンセントA (制御なし)

設定

シャットダウン開始遅延(秒): ③ 0

シャットダウンに必要な時間(秒): ② 180

外部コマンド実行時間(秒): ④ 0

外部コマンド: ⑤ 参照

OS終了モード: ⑥ 「シャットダウン」で終了する

仮想サーバ終了モード: ⑦ 「OS」が終了する

ゲストOS終了モード: ⑧ 「シャットダウン」で終了する

No	項 目	内 容
①	出力コンセント選択	<p>コンピュータの電源を取っている出力コンセントグループ（出力コンセントA/B/C）を選択します。</p> <p>※出力コンセント制御機能のないUPSでは選択できません。</p>
②	<p>コンピュータ名</p> <p>* 1</p>	<p>マスタエージェント（SC22 / SC21 / SC20G / SC20G2）のクライアントコンピュータ一覧（又はクライアントテーブル）画面に表示されるコンピュータ名の設定です。（半角 15 文字以下）</p>
	<p>シャットダウンに必要な時間（秒）</p> <p>* 2</p>	<p>■出力コンセント制御のあるUPS</p> <p>①項で選択したコンセントの出力停止までの時間を設定します。コンピュータのシャットダウンにかかる時間より少し長めの設定にしてください。</p> <p>■出力コンセント制御機能のないUPS</p> <p>コンピュータのシャットダウンにかかる時間を設定します。</p> <p>参考</p> <p>UPSの停止までの時間は、マスタエージェントの「出力コンセント情報」で確認してください。</p> <p>注意</p> <p>マスタがPowerAct Proの場合はP.29「■ファイアウォール設定ツールで設定する」も参照してください。</p>
③	シャットダウン開始遅延時間（秒）	<p>シャットダウン開始時間を遅延する設定です。</p> <p>設定値は60秒刻みで0～600秒です。</p> <p>(0 / 60 / 120 / 180 / 240 / 300 / 360 / 420 / 480 / 540 / 600)</p> <p>「0」に設定すると、マスタエージェントからのシャットダウン命令を受信したときにシャットダウンを開始します。</p>

* 1 マスタエージェントがネットワークカード（SC22/SC21/SC20G2/SC20G）の設定です。

* 2 マスタエージェントがPowerAct Proの設定です。

No	項 目	内 容
④	外部コマンド実行時間 (秒)	<p>1. 「外部コマンド」で指定したバッチファイル等を実行する時間。 この時間 OS はシャットダウンを開始しません。</p> <p>2. KVM 環境で⑦項「仮想サーバ終了モード」を「PowerAct Pro が終了する」にした場合、ゲスト OS の終了に必要な時間を設定します。 設定値は 60 秒刻みで 0~600 秒です。 (0 / 60 / 120 / 180 / 240 / 300 / 360 / 420 / 480 / 540 / 600)</p> <p>※この間ホストはシャットダウンを開始しません。 ※「0」に設定すると、仮想マシンが終了する前にホストがシャットダウンしてしまいますので、必ず、仮想マシンの終了に必要な時間を設定してください。 ※仮想マシンをホストが終了する場合は、「0」にしてください。</p>
⑤	外部コマンド	<p>シャットダウン時に実行したいバッチファイル等のパスを設定します。 ※シャットダウン時に実行するバッチファイル等がない場合は、空欄のままです。</p>
⑥	終了モード	<p>OS の終了モードを設定します。 選択肢：「休止状態」で終了する / 「シャットダウン」で終了する ※「「休止状態」で終了する」を選択した場合、⑦「仮想サーバ終了モード」と⑧「ゲスト OS 終了モード」は無効になります。</p>
⑦	仮想サーバ終了モード (ゲスト OS 終了方法)	<p>ゲスト OS の終了処理を OS 側で行うか、PowerAct Pro で行うか選択します。 選択肢：「PowerAct Pro」が終了する / 「OS」が終了する ※「PowerAct Pro が終了する」を選択する場合は、必ず、④項「外部コマンド実行時間」でゲスト OS の終了に必要な時間を設定してください。</p>
⑧	ゲスト OS 終了モード	<p>ゲスト OS の終了方法を選択します。 ⑦項で「「PowerAct Pro」が終了する」を選択すると有効になります。 本設定は一括の設定になりますので、ゲスト OS 毎の個別設定を希望される場合は、⑦で「「OS」が終了する」を選択し、ホスト側でゲスト OS 個々の終了方法を設定してください。</p>
⑨	設 定	シャットダウンパラメータの設定値を保存します。

参考

OS がシャットダウンを開始するのは③「シャットダウン開始遅延時間」と④「外部コマンド実行時間」が経過した後です。

■下部ボタン



項目	内容								
	本ソフトウェアのバージョン情報を確認できます。								
	オンラインヘルプを表示します。								
戻る	「環境設定」の選択肢を変えた後にクリックすると、元の設定値（保存されている値）に戻ります。 選択肢変更後、[設定] ボタンを押した場合は元の設定値には戻りません。								
イベントログ	本ソフトウェアのイベントログ画面を表示します。 イベントログはマスタの IP アドレス毎にタブで表示します。 <div data-bbox="383 873 1388 1478" data-label="Image"> </div> <table border="1"> <tr> <td>保存</td> <td>イベントログを保存します。[保存] ボタンをクリックすると任意の場所にログを保存できます。 ログのファイル名は”マスタの IP アドレス”、拡張子は”log”です。</td> </tr> <tr> <td>削除</td> <td>イベントログを削除します。</td> </tr> <tr> <td>印刷</td> <td>イベントログを印刷します。ログの印刷にはプリンタが必要です。</td> </tr> <tr> <td>OK</td> <td>イベントログ画面を閉じます。</td> </tr> </table>	保存	イベントログを保存します。[保存] ボタンをクリックすると任意の場所にログを保存できます。 ログのファイル名は”マスタの IP アドレス”、拡張子は”log”です。	削除	イベントログを削除します。	印刷	イベントログを印刷します。ログの印刷にはプリンタが必要です。	OK	イベントログ画面を閉じます。
保存	イベントログを保存します。[保存] ボタンをクリックすると任意の場所にログを保存できます。 ログのファイル名は”マスタの IP アドレス”、拡張子は”log”です。								
削除	イベントログを削除します。								
印刷	イベントログを印刷します。ログの印刷にはプリンタが必要です。								
OK	イベントログ画面を閉じます。								
ログオフ	「環境設定」を閉じます。								

4-5 初回（インストール直後）の設定手順

本ソフトウェアインストール直後の設定の流れを説明します。

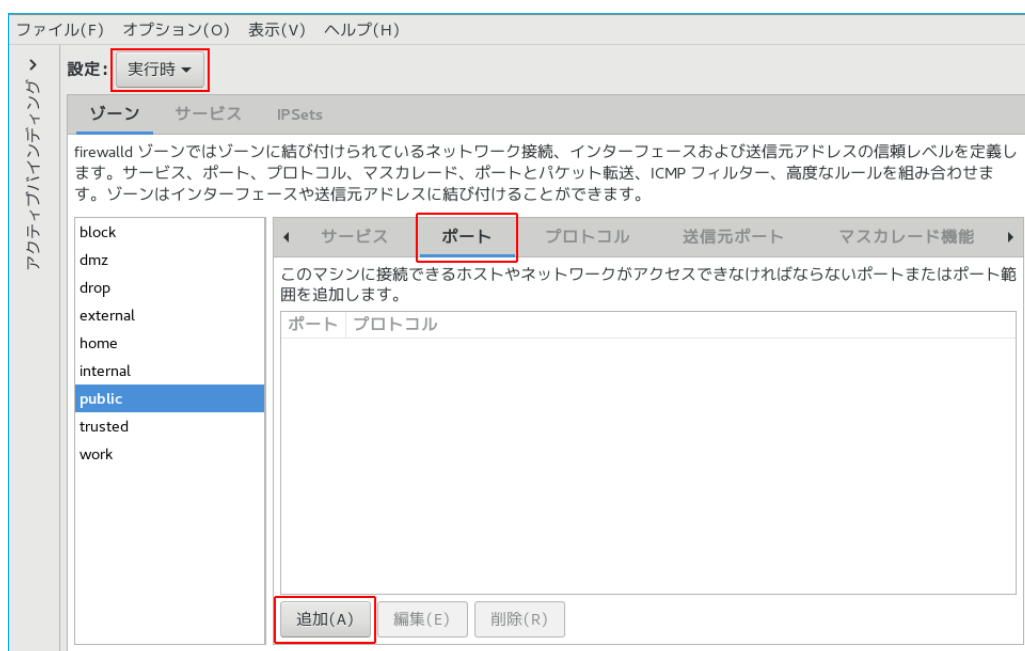
■ファイアウォール設定で UDP4114 ポートを開放する

マスタエージェントの IP アドレスを検索設定する場合、ファイアウォール設定で UDP4114 ポートを開放する必要があります。ここでは「ファイアウォール設定ツール」でポートを開放する手順を説明します。尚、マスタエージェントの IP アドレスを直接入力する場合はこの設定は不要ですので、次項へ進んでください。

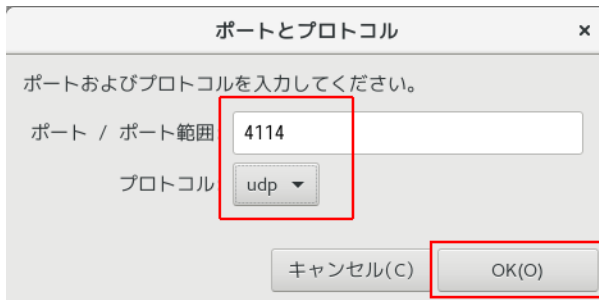
1 [アプリケーション] → [諸ツール] → [ファイアウォール] を開く



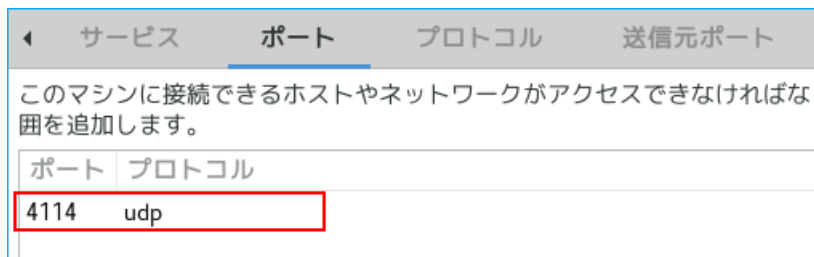
2 「設定」欄が [実行時] になっていることを確認し、[ポート] を選択、[追加 (A)] ボタンをクリックする



- 3 「ポート/ポート範囲」に「4114」と入力、「プロトコル」欄は [udp] を選択、[OK(O)] ボタンをクリックする



- 4 4114 ポートが追加されていることを確認する

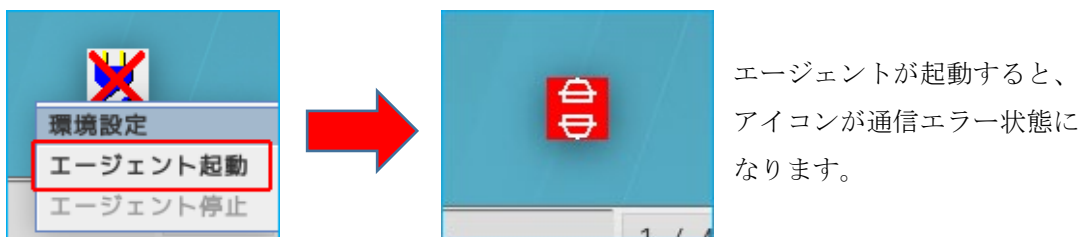


- 5 上部メニューの「ファイル(F)」→ [終了(Q)] で「ファイアウォールの設定」画面を閉じる

以上でファイアウォール設定は終了です。続いて本ソフトウェアの設定に移ります。

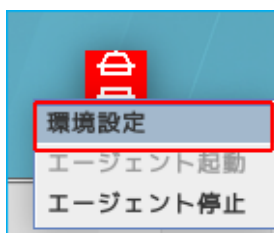
■環境設定

- 1 デスクトップ右下のアイコンを右クリックし、メニューの「エージェント起動」を選択する

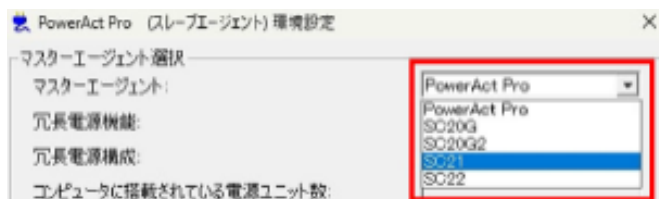


エージェントが起動すると、アイコンが通信エラー状態になります。

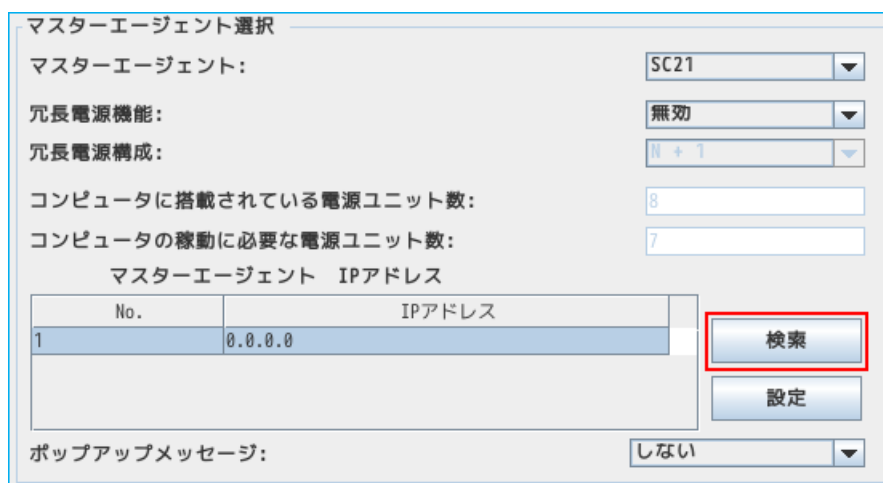
- 2 アイコンを右クリックし、メニューの「環境設定」を選択する



3 マスタエージェントの種別を選択する

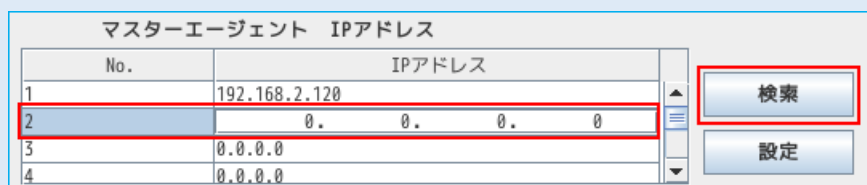


4 [検索] ボタンをクリックする



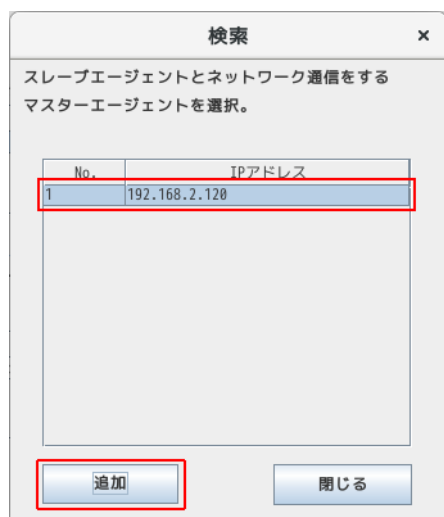
参考

冗長電源構成でマスタエージェントを追加する場合は、次の「IP アドレス」欄を選択した後、[検索] ボタンをクリックしてください。



※IP アドレスは直接入力できます。マスタエージェントの IP アドレスを手入力する場合は、「IP アドレス」欄をクリックして数値を入力してください。

5 マスタエージェントの IP アドレスを選択し、[追加] ボタンをクリックする



6 [設定] ボタンをクリックする

マスターエージェント選択

マスターエージェント: SC21

冗長電源機能: 無効

冗長電源構成: N + 1

コンピュータに搭載されている電源ユニット数: 8

コンピュータの稼動に必要な電源ユニット数: 7

No.	IPアドレス
1	192.168.2.120

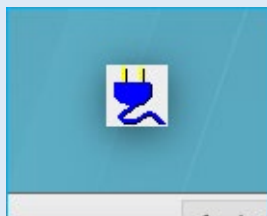
検索

設定

ポップアップメッセージ: しない

参考

マスターエージェントと通信が確立すると、デスクトップのアイコンが通信中に変わります。



通信確立時、シャットダウンパラメータの「出力コンセント情報」等、一部の項目がマスターエージェントと連携します。

7 コンピュータの電源をとっている出力コンセントグループを選択する

シャットダウンパラメータ

出力コンセント選択

No.	出力コンセント情報
1	出力コンセントA (制御なし)

出力コンセントA (制御なし)

出力コンセントA (制御なし)

出力コンセントB (制御あり)

出力コンセントC (制御あり)

設定

コンピュータ名:

参考

出力コンセント制御機能の無いUPSでは、「出力コンセント情報」は無効になります。
出力コンセント制御機能があるUPSでも、マスターエージェントと通信できない場合、「出力コンセント情報」は無効表示になります。

8 マスターエージェントに表示するコンピュータ名を入力する

コンピュータ名:

シャットダウン開始遅延(秒): 0

※半角英数で15文字以下

9 シャットダウン開始遅延時間、外部コマンド実行時間を選択する（0は遅延しない設定）

シャットダウン開始遅延(秒): 0
外部コマンド実行時間(秒): 0

10 OS 終了モードを選択する

OS終了モード: 「シャットダウン」で終了する
仮想サーバ終了モード: 「休止状態」で終了する
ゲストOS終了モード: 「シャットダウン」で終了する

11 [設定] ボタンをクリックする

シャットダウンパラメータ

出力コンセント選択

No.	出力コンセント情報
1	出力コンセントA (制御なし)

設定

コンピュータ名: RHEL75
シャットダウン開始遅延(秒): 0
外部コマンド実行時間(秒): 0
外部コマンド: 参照
OS終了モード: 「シャットダウン」で終了する
仮想サーバ終了モード: 「OS」が終了する
ゲストOS終了モード: 「シャットダウン」で終了する

12 [ログオフ] ボタンで画面を閉じる

参考

「マスタエージェント選択」の詳細は P. 20 「4-3 マスタエージェント選択」を参照してください。

「シャットダウンパラメータ」の詳細は P. 21 「4-4 シャットダウンパラメータ」を参照してください。

5. その他の設定

ファイアウォール設定と本ソフトウェアのアンインストールについて説明します。

5-1 ファイアウォール設定 (PowerAct Pro MasterAgent の場合)

マスタエージェントを PowerAct Pro にする場合、ファイアウォールのポート設定が必要です。

本項ではコマンドラインで設定する方法と、グラフィック画面の「ファイアウォール設定ツール」で設定する方法について説明します。

開放するポートは、マスタ/スレーブ間の通信で使用します。

注意

マスタエージェントを PowerAct Pro にする場合、MasterAgent と SlaveAgent 双方のコンピュータにファイアウォールの設定が必要です。PowerAct Pro MasterAgent をインストールしたコンピュータでも、以下の3つのポートを開けてください。

- ①TCP 4112
- ②UDP4114
- ③UDP4117

■コマンドラインで設定する

1 端末を開き、以下のポート開放コマンドを入力する

```
firewall-cmd --zone=public --add-port=4112/tcp --permanent
firewall-cmd --zone=public --add-port=4114/udp --permanent
firewall-cmd --zone=public --add-port=4117/udp --permanent
```

```
[root@localhost75 ~]# firewall-cmd --zone=public --add-port=4112/tcp --permanent
success
[root@localhost75 ~]# firewall-cmd --zone=public --add-port=4114/udp --permanent
success
[root@localhost75 ~]# firewall-cmd --zone=public --add-port=4117/udp --permanent
success
```

2 以下のコマンドでファイアウォールをリロードし設定を反映させる

```
firewall-cmd --reload
```

```
[root@localhost75 ~]# firewall-cmd --reload
success
[root@localhost75 ~]# █
```

3 端末を閉じる

以上でファイアウォールのポート設定は終了です。

■ファイアウォール設定ツールで設定する

- 1 [アプリケーション] → [諸ツール] → [ファイアウォール] を開く

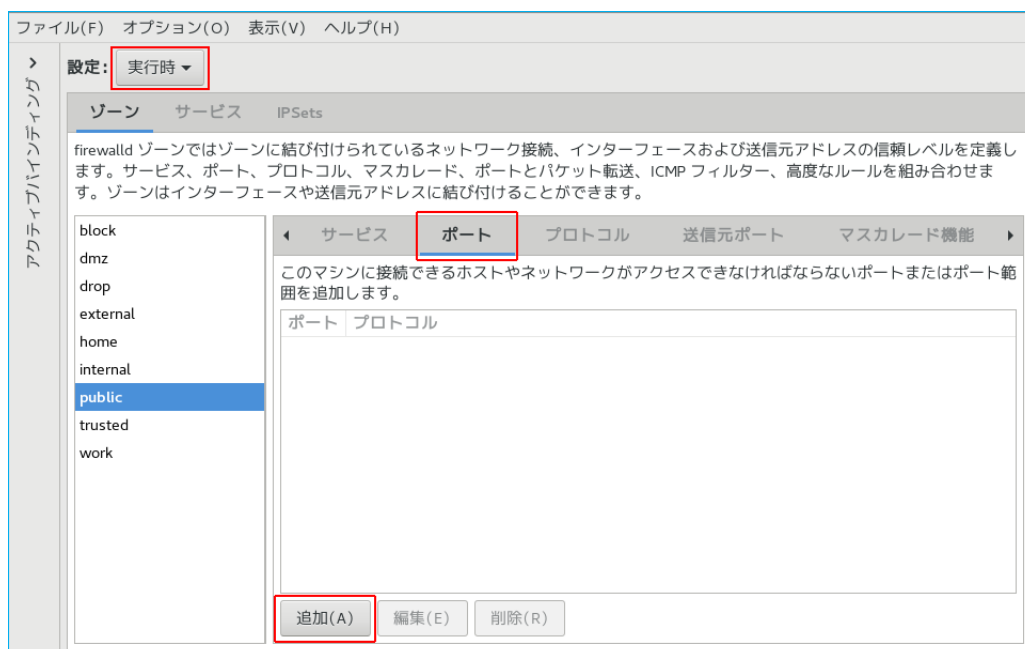


参考

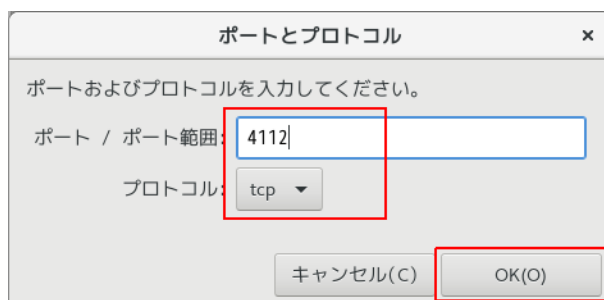
端末で以下のコマンドを実行してもファイアウォール設定ツールが起動します。

```
firewall-config
```

- 2 「設定」欄が [実行時] になっていることを確認し、[ポート] を選択、[追加(A)] ボタンをクリックする

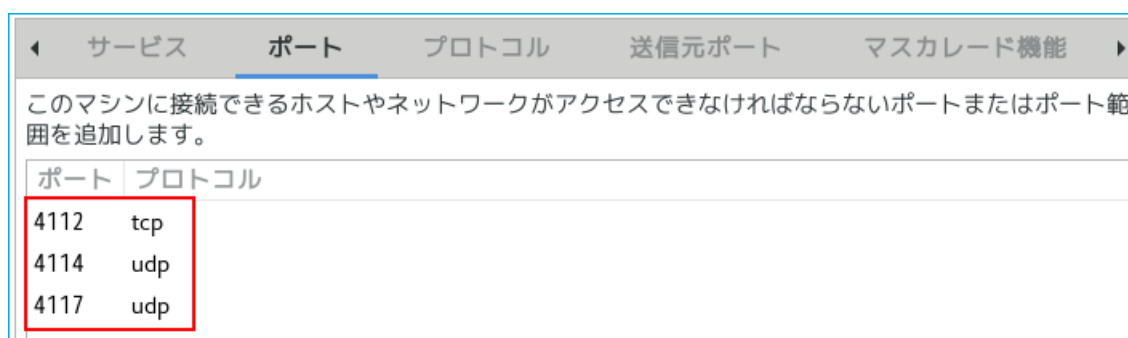


- 3 「ポート/ポート範囲」に「4112」と入力、「プロトコル」欄は [tcp] を選択、[OK(O)] ボタンをクリックする

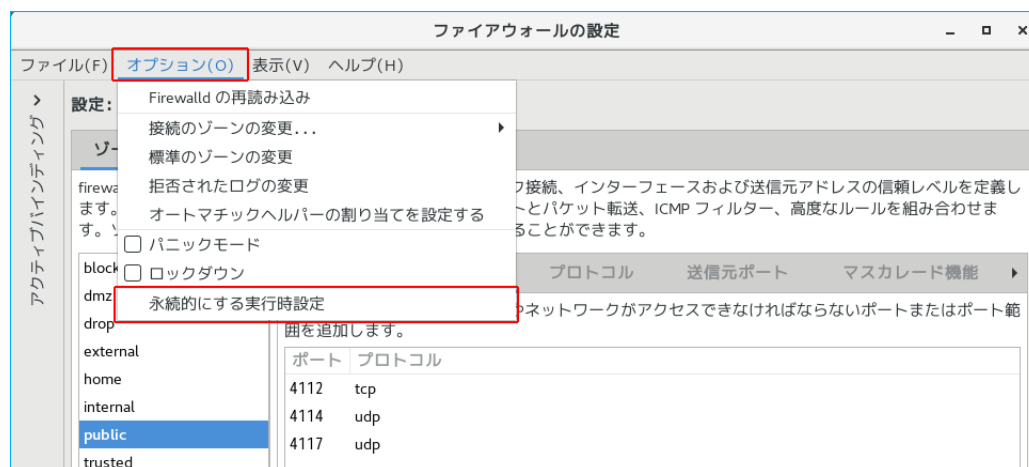


※同様に 4114/udp、4117/udp も追加する

- 4 3つのポートが追加されていることを確認する



- 5 上部メニューの [オプション] → 「永続的にする実行時設定」をクリックする



- 6 上部メニューの「ファイル(F)」 → [終了(Q)] で「ファイアウォールの設定」画面を閉じる

以上でファイアウォールのポート設定は終了です。

5-2 アンインストール方法

本ソフトウェアのアンインストール（削除）手順を説明します。

注意

- ・ root 権限のあるユーザ名でコンピュータにログインしてください。
- ・ 起動している他のアプリケーションを終了してください。

1 以下のコマンドを実行する

```
rpm -e PowerActPro-SlaveAgent
```

2 「y」を入力し、エンターキーを押す

```
[root@localhost75 ~]# rpm -e PowerActPro-SlaveAgent
Is it OK to uninstall the PowerAct Pro from this computer? [ y/n ] y
Stopping the Slave Agent firstly.....
[root@localhost75 ~]# █
```

以上で本ソフトウェアのアンインストールは終了です。

本取扱説明書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されております。
本取扱説明書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

オムロンソーシアルソリューションズ株式会社

© OMRON SOCIAL SOLUTIONS Co., Ltd. 2018

K1M-D-23037A